

7. 検討結果のとりまとめ

これまで検討した大崎市水道事業としての更新需要見通し及び財政収支見通しについて、水道施設の健全度の推移や財政状況の推移等を吟味して、水道事業の持続可能性の観点から、その妥当性を評価した。また、検討結果を基に、運営基盤強化に向けた検討などへの活用も視野に入れ、アセットマネジメントの問題点・課題や対応方針の検討を行った。

① 妥当性の確認

- ◆ 構造物及び設備の健全度は、現状を維持できるため算定結果は妥当である。
- ◆ 管路については、老朽化管路は発生するが、法定耐用年数に対する実績を考慮すると、概ね妥当である。
- ◆ 財政収支見通しについては、適切な条件設定の下に算定されており妥当である。

② 問題点・課題

- ◆ 構造物及び設備については、今後、機能診断により更新時期の適正化を図る必要がある。
- ◆ 管路については、将来的に老朽化管路が増加するため、維持管理体制の強化が必要となる。
- ◆ 財政収支見通しについては、更なる経営改善による費用の抑制等や、更新投資額の適正化の観点から、再構築や規模の適正化による再投資価格の見直しを行う必要がある。

③ 対応方針

- ◆ 構造物及び設備については、中長期的な水需要予測を行い、全体の水運用から見ての再編成や規模の適正化を検討する。
- ◆ 管路については、配水管の管理について定期的な漏水調査等を実施していく。
- ◆ 財政収支見通しについては、料金改定を検討する前提条件として、管理コストの縮減や延命化方策の可能性を検討する。